◎ アレルギー疾患「保健指導マニュアル」を活用・定着させるモデル事業

（平成 31・令和元年度）

○令和元年６月 18 日（火）
山梨県山梨市

・会　　場：市保健センター、夢ワーク山梨
・連携相手：山梨市健康増進課
・講　　師：国立成育医療研究センター
・講　　師：アレルギーセンター
・講　　師：総合アレルギー科医長　　福家辰樹先生
・参 加 者：118 人

6月 18 日（火）、「乳幼児のアレルギー対策講習会」を開催した。講習会は2部形式で行い、乳幼児親子が参加し市の保健センターで行われた講習会には保護者 24 人と市の保健師など合わせて 30 人、会場を「夢わーく山梨」に移し保育園・幼稚園・小学校・中学校等教育関係者、看護職、医療職、福祉職等子育て支援に携わる支援者を対象に行った講習会には保健師 10 人、管理栄養士 10 人、保育士 11 人、助産師2人、医師2人など 94 人が参加した。専門職向けの講習会では冒頭に市長が挨拶した。福家辰樹先生は「アレルギーの基礎知識と指導方法」と題して講演し、アトピー性皮膚炎治療の重要性、重症度分類と治療の概要、食物アレルギーの基礎知識、アレルギーの予防などについて分かりやすく説明、「エピペン」トレーナーを使った実習、質疑も行った。

○令和元年８月 27 日（火）
宮城県南三陸町

・会　場：総合ケアセンター南三陸
　　（保健センター）
・連携相手：南三陸町保健福祉課
・講　　師：なすのがはらクリニック・東京都立
　　小児総合医療センター　　古川真弓先生
・参 加 者：45 人

8 月 27 日（火）、「親子のためのスキンケア講座」を開催した。講座は 1 歳までの親子と妊娠中のお母さんに町が呼び掛けて行われた。午前と午後の 2 回行われた講座には、16 組の赤ちゃん連れ親子など 45 人が参加した。古川真弓先生は、トラブルを起こしやすい赤ちゃんの肌の特徴やスキンケアが大切な理由などについて分かりやすく解説。食物アレルギーについても、お母さんたちが疑問に答えて、「妊娠中・授乳中のお母さんが卵や牛乳を除去しても生まれてくる子どもの食物アレルギーやアトピー性皮膚炎を予防することはできない。バランスの良い食事をとることが大切」「離乳食を遅らせても食物アレルギーを予防することできない。通常と同じ 5, 6 か月から始めましょう」と明快に答えた。講座には取材のため共同通信の記者も参加した。

○令和元年 10 月 2 日（水）
福島県相馬市

・会　　場：福島県相馬市民会館
・連携相手：福島県相馬郡医師会
（後援：相馬市、新地町、南相馬市）
・講　　師：なすのがはらクリニック・東京都立
小児総合医療センター　古川真弓先生
・参 加 者：105 人

10 月2日（水）、「小児のアレルギー疾患保健指導の手引きを活用するための講演会」を開催した。講演会は乳児健診や患者相談の場でアレルギーを心配する母子に対して適切な指導ができるようにスキルアップの機会を提供する目的で行われた。相馬市、南相馬市、新地町などから保健師、助産師、市立病院など医療機関の医師・看護師、保育士、幼稚園教諭、栄養士、母子保健担当の行政職員など、申し込みを超える 105 人が参加した。古川真弓先生はアレルギー疾患の正しい病態の理解を基本に、乳幼児健診における観察と指導のポイント、保護者に伝えるタイミングなどについて詳しく説明した。講演会は保健センターなど相馬市の職員が運営を担当するなど地域あげての取り組みとなった。

○令和元年 11 月 10 日（日）
北海道北見市

・会　　場：北見市端野公民館
・連携相手：障害者支援施設「清流の里」（西興部村）
・講　　師：国立成育医療研究センター
アレルギーセンター
総合アレルギー科医長　福家辰樹先生
・参 加 者：50 人

11 月 10 日（日）、研修会「専門職のためのアレルギーの最新知識」を開催した。講座は北海道オホーツク地域の障害者の支援を行う施設の職員、養護・高等養護職員、市町村の保健師等などを対象に行い、会場となった北見市の端野公民館には自動車で3時間以上かかる広大な地域から 50 人が参加した。講師の福家辰樹先生は、食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎の病態の正しい理解、食物アレルギーの重篤な症状への対応などについて話し、全員が「エピペン」トレーナーを、代表が本物の「エピペン」を使う実習、スキンケアの実習も行った。参加者は参加する機会が少ない研修会の機会とあって施設で課題となっていることについて積極的に質問し、終了後には「この地域では受けることができない充実した内容」などの声が聞かれた。

○令和元年 11 月 11 日（月）
福島県南相馬市

・会　　場：かしま交流センター（南相馬市）
・連携相手：福島県相双保健福祉事務所
・講　　師：なすのがはらクリニック・東京都立
小児総合医療センター　古川真弓先生
・参 加 者：45 人

11 月 11 日（月）、「小児アレルギー保健指導講座」を開催した。相双保健福祉事務所は相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村を所管し、地域内にある福島第一原発の事故の影響が強く残っている。「講座」には、保健福祉事務所の保健師をはじめ大熊町や飯舘村の保健師や栄養士、保育所や幼稚園の教職員、看護師など 45 人が参加した。保健福祉事務

所保健福祉課長の挨拶に続いて、古川真弓先生は「小児アレルギーの基礎知識と指導方法について」をテーマに講演し、アレルギーのこどもを預かる現場で大切なこととして、食物アレルギーへの理解、事故防止のための考え方と対策、緊急時の対応を挙げて詳しく解説した。また乳幼児健診における観察と接し方について傾聴（共感）、正しい知識情報、具体的な指導が大切であることを強調した。

○令和元年 12 月８日（日）
愛媛県松山市

・会　　場：愛媛県男女共同参画センター
・連携相手：愛媛助産師会
・講　　師：国立成育医療研究センター
　　アレルギーセンター
　　総合アレルギー科医長 福家辰樹先生
・参 加 者：40 人

12 月 8 日（日）、アレルギーの基礎知識とスキンケアを学び「保健指導」に役立てる研修会を開催した。研修会には県内の医療機関で活躍する助産師など 40 人が参加した。講師の福家辰樹先生は「アレルギーの基礎知識と保健指導及びスキンケアの実践」をテーマに講演し、食物アレルギーの病態や対応、アトピー性皮膚炎の病態と適切な対応などについて説明し、特に助産師がかかわる妊娠中の母親が誤解しやすい点について、妊娠中・授乳中の母親が食物抗原を回避しても子どもの食物アレルギーやアトピー性皮膚炎の発症を予防できないこと、妊娠中は食物制限をしないでバランスの良い食事をすることが大事なことを強調した。研修会ではきめの細かな泡を作って肌を洗い十分な量の保湿剤を塗って感触を確かめるスキンケアの実習や、参加者全員が「エピペン」トレーナーを使った実習も行った。

○令和元年 12 月 10 日（火）
広島県尾道市

・会　　場：尾道市総合福祉センター
・連携相手：広島県東部保健所
　　（後援：三原市、尾道市、世羅町）
・講　　師：国立成育医療研究センター
　　アレルギーセンター
　　総合アレルギー科医長　　福家辰樹先生
・参 加 者：59 人

12 月 10 日（火）、「小児のアレルギー疾患保健指導者育成研修会」（後援：三原市、尾道市、世羅町）を開催した。研修会には管内の自治体から保健師、看護師、助産師、薬剤師、管理栄養士、保育士、保育教諭、養護教諭、栄養教諭など幅広い職種の方々39 人が参加した。講師の福家辰樹先生は「小児のアレルギー疾患における保健指導の実践（アレルギー疾患の発症リスクの軽減と重症化予防）」をテーマに話し、食物

アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息の病態や治療を解説し、アレルギーの発症予防などについて詳しく説明した。

研修会に先立ち、午前中には同会場で患者のための勉強会「赤ちゃんからできるスキンケアと食物アレルギー対策」も行った。勉強会にはスタッフを含め 20 人が参加し、福家先生の話に耳を傾けた。

○令和元年 12 月 24 日（火）
神奈川県伊勢原市

・会　　場：伊勢原市中央公民館
・連携相手：伊勢原市子育て支援課
・講　　師：国立病院機構神奈川病院
　　アレルギー科医長　　渡辺博子先生
・参 加 者：40 人

12 月 24 日（火）、「赤ちゃんからのスキンケア講座」を行った。研修会はアレルギー疾患対策で「母の会」が子育て支援課と連携する中から継続して実施されることになった。

講座には、妊婦や赤ちゃんを連れた若いお母さんやお父さんなど 40 人余りが参加、講師の渡辺博子先生の講義を聞くとともに、きめの細かな泡を作って肌を洗い、十分な量の保湿剤を塗って感触を確かめる実習を行った。実習では講師の渡辺先生自ら泡立てを行い洗って見せるなど具体的に行われ、参加者からは「とても分かりやすくて良かった」「自分もアトピー性皮膚炎なので赤ちゃんの乾燥肌を治してあげたい」「心配なことが聞けてよかった」などの感想が寄せられた。また個別の相談も行われ、講師が連れてきた赤ちゃんを見ながら両親を指導する場面もあった。講座には読売新聞、東京新聞が取材に訪れた。

○令和元年 12 月 25 日（水）
福島県郡山市

・会　　場：郡山市労働福祉会館
・連携相手：福島県健康づくり推進課
・講　　師：なすのがはらクリニック院長・
　　前東京都立小児総合医療センター
　　アレルギー科部長　　飯野（赤澤）晃先生
　　小児アレルギーエデュケーター、
　　看護師 益子育代さん
・参 加 者：110 人

12 月 25 日（水）、「アレルギー疾患に関する研修会」の開催で福島県と連携した。アレルギー疾患対策をめぐって「母の会」が健康づくり推進課を訪問、情報交換を行っていたことから連携して開催することになった。研修会には県南部を中心に県の機関や市町村の子育て支援に関わる部門から保健師や栄養士など、また認定こども園や保育所などの職員 102 人、県の健康づくり推進課長などスタッフ合わせて 110 人余りが参加した。

講師の飯野先生は「知っておくべきアレルギー疾患の基礎知識と最新の知見」について、益子さんは「正しいスキンケアの方法、アナフィラキシー時のエピペンの使用方法」について講演や実習を行った。研修会には福島民友新聞の記者が取材に訪れた。

○令和２年１月25日（土）
岩手県釜石市

・会　　場：市民交流・活動スペース「青葉ビル」
・連携相手：釜石市保健福祉部子ども課
・講　　師：小児アレルギーエデュケーター、
管理栄養士 長谷川実穂さん
・参 加 者：38 人

1月25日（土）、午前中に保護者向けの講演会、午後には保育所職員などが参加する研修会を開催した。午前の講演会には保護者、子ども課長ら市の職員やスタッフ合わせて 20 人、午後の研修会には隣接する大槌町の保育所からの参加者も含め 18 人が参加した。講師の長谷川実穂さんは、「食物アレルギーの食事と管理」をテーマに、食物アレルギーの病態の理解や日常生活での適切な対応、保育所などで起こりうる誤食事故の予防、事故が発生した時の対応などについて、「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」などを使いながら確認した。午前・午後ともスキンケアの実習、質疑も行った。研修会に先立ち「母の会」は 24 日、釜石市に向かう前の時間を利用して栃木県大田原市役所、岩手県庁を訪問、担当課で「保健指導」の推進や災害時のアレルギー患者支援などについて意見を交換した。

○令和２年２月４日（火）
神奈川県相模原市

・会　　場：乳児院・児童養護施設
「相模原南児童ホーム」
・連携相手：乳児院・児童養護施設
「相模原南児童ホーム」
・講　　師：小児アレルギーエデュケーター、
管理栄養士 長谷川実穂さん
・参 加 者：52 人

2 月 4 日（火）、乳児院・児童養護施設「相模原南児童ホーム」で研修会を行った。同ホームは様々な事情から家庭で暮らすことが出来ない子どもたちを預かり、自立のための援助を行う施設で 70 人近くが暮らしている。アレルギーの子もいることから適切に対応するために午前・午後 2 回の研修会を行い全職員が参加した。講師の長谷川さんは、主に食物アレルギーについて正しい病態の理解に基づいた対応を求め、除去する食品ごとの特徴や加工食品の原材料表示の見方、調理に使う食器類の管理、誤食事故の防止と症状が出た時の対応などについて、多くの公的な資料や東京都の「食物アレルギー 緊急時対応マニュアル」などを使って説明した。

◎学会での報告・展示、専門誌のへの寄稿

○第66回 日本小児保健協会学術集会

6月 20 日(木)～22 日(土)、東京・江戸川区の「タワーホール船堀」で開催された第 66 回日本小児保健協会学術集会のシンポジウム「研究や活動を通してアレルギー予防に成功した事例の紹介」に招かれ、「保健センター等と連携したアレルギーの『保健指導』の試み」を報告した。この中で「母の会」は、国の「アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針」(平成 29 年 3 月)に「市町村保健センター等で実施する乳幼児健診等で適切な保健指導を行う」(要旨)ことが新たな視点として盛り込まれたことを受けて、(独)福祉医療機構の助成金を活用し、平成 29 年度と 30 年度に市町村保健センター、医療機関、地域医師会、大学などと連携し、多くのアレルギー専門医など協力を得て行った「保健指導」の試みを報告し、全国で取り組みを進めるよう参加者に訴えた。

○第 78 回 日本公衆衛生学会総会

10 月 23 日(水)～25 日(金)、高知市で開催された第 78 回日本公衆衛生学会総会に参加し発表と展示を行った。大きなテーマとして取り組んでいる市町村保健センター等と連携した「保健指導」の試みに関する内容を報告し、展示では3年にわたる取り組みのまとめを、一般演題の発表では平成 30 年度の取り組みと参加者アンケートの内容などを報告した。「母の会」などの要望を受けて厚生労働省特別研修班が作成した「小児のアレルギー疾患 保健指導の手引き」の活用などを呼びかけ、研究班から預かった「小児のアレルギー疾患 保健指導の手引き」200 冊を含め 500 冊を会場で関係者に配布した。また会場の展示ブースでは向かい合った国立保健医療科学院のブースで福島靖正院長(元厚労省健康局長)と、同科学院で行う研修の在り方などについて意見を交換した。

○第 56 回 日本小児アレルギー学会学術大会

11 月2日(土)、3日(日)の両日、千葉市の幕張メッセ国際会議場で開催された第 56 回日本小児アレルギー学会学術大会に参加し、「市町村保健センター等

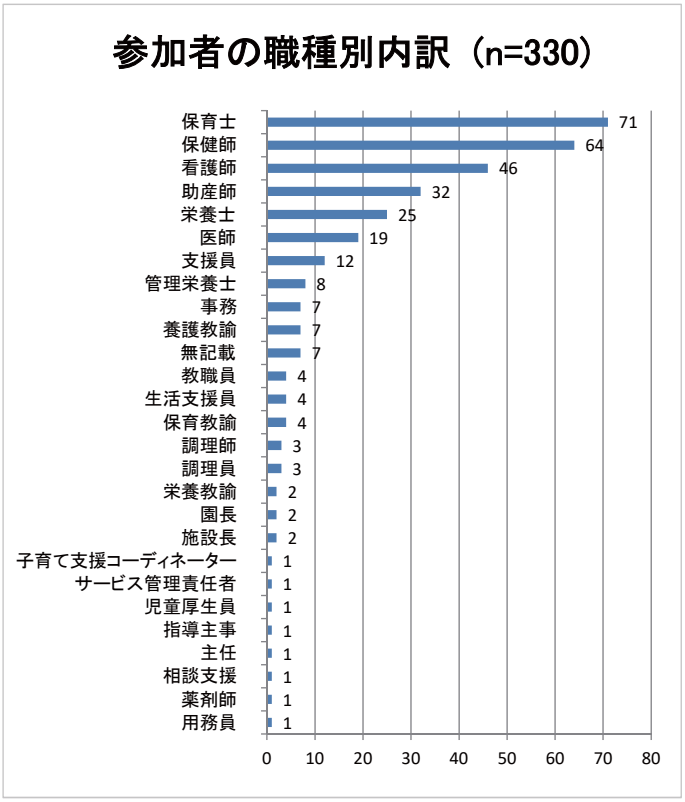
と連携した『保健指導』の試み」を展示で紹介、「小児のアレルギー疾患 保健指導の手引き」500 冊を配布した。展示には多くの参加者が興味深い様子で立ち寄り、資料を手にとっていた。

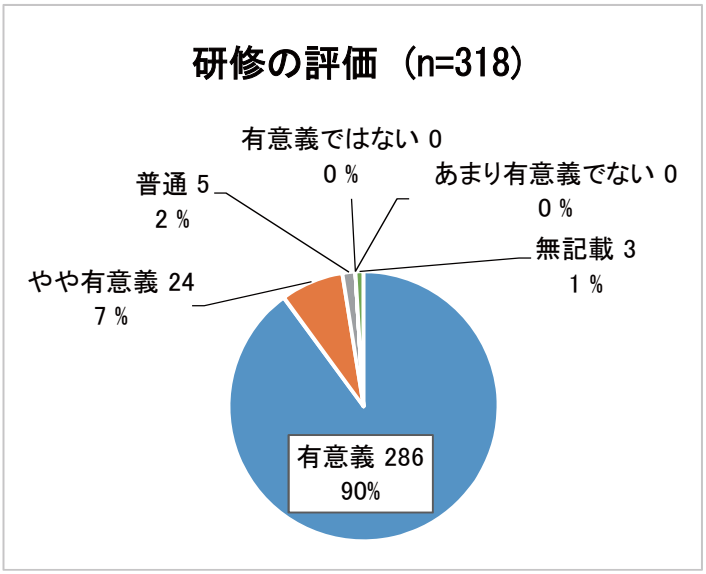
○「小児保健研究」第 78 巻6号に寄稿

公益社団法人日本小児保健協会からの要請を受けて、「小児保健研究」第 78 巻6号に第 66 回日本小児保健協会学術集会におけるシンポジウム「研究や活動を通してアレルギー予防に成功した事例の紹介」で当会が報告した「保健センター等と連携したアレルギーの『保健指導』の試み」の内容をまとめて寄稿。国の「アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針」(平成 29 年 3 月)に「市町村保健センター等で実施する乳幼児健診等で適切な保健指導を行う」(要旨)ことが新たな視点として盛り込まれたことなど、背景や「保健指導」の趣旨を含めて詳述し、全国の母子保健従事者に取り組みを呼び掛けた。

◎研修会参加者アンケート

当事業では、専門職が参加した福島県相馬郡医師会、障害者支援施設「清流の里」(北海道西興部村)、福島県相双保健福祉事務所、愛媛助産師会、広島県東部保健所、福島県健康づくり推進課と連携した研修会でアンケートを行い、409 人の参加者のうち330 人(81%)から回答を得た。その中から参加者の職種別内訳と研修の評価を示す。





アレルギー疾患「保健指導マニュアル」を活用・定着させるモデル事業（報告書）

令和２年３月発行
発行者　NPO 法人アレルギーを考える母の会
〒241-0024　横浜市旭区本村町 17-1-106
FAX：045-362-3106
E-mail：sonobe@hahanokai.org

（独）福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
＊無断転載、配布を禁じます＊

NPO 法人アレルギーを考える母の会　令和２ 年３月